

2024/05/18

5月18-19日に大阪大学で開催された日本アフリカ学会第61回大会において、研究成果を発表しました。

谷口京子

マラウイのコミュニティ・ベース・チャイルドケア・センターにおける教育実践要旨

本研究の目的は、マラウイのコミュニティ・ベース・チャイルドケア・センターにおける教育実践について分析することである。

途上国の就学前教育に関する研究は、幼児教育の効果や指標に基づくスキルの測定が近年盛んに行われている。一方、就学前教育施設でどのような教育が実践されているのかを分析している研究は非常に少ない(三輪, 2016)。

就学前教育は、2000年の万人のための教育ダカール目標、2015年の持続可能な開発目標に掲げられ、質の高い施設へのアクセスの向上が求められている。乳児期からの早期介入により、貧困削減、不平等の緩和、社会的・経済的コストの削減に繋がるとされている。また、非認知能力の育成は、幼児期が重要であり、その効果は、特に、貧困層に高いと示されている(Heckman & Savelyev, 2012)。さらに、就学前教育は、初等教育への準備段階であり、初等教育の低学年における留年や退学の減少や初等教育への学業成績への影響が挙げられている。

本研究の対象国であるマラウイにおける就学前教育施設は、2007年7,801施設であったが、2018年12,220施設となり、非常に増加傾向にある。就学前施設は無償のコミュニティ・ベース・チャイルドケア・センター(Community-Based Childcare Centre: CBCC)と有償の施設に大別される。CBCCは、就学前教育施設の7割を占める。保育者養成は、マラウイでは、養成機関はなく、政府や援助団体が実施する2週間のトレーニングを受けることが多い。トレーニングを受けた保育者は47.3%である(MoGCDSW, 2021)。また、CBCCの保育者は基本的に無給のボランティアである。政府は、就学前教育に対して、国家カリキュラムや保育者ガイドブックを発行している。

本研究の調査地は、マラウイ北部に位置するンカタベイ県である。調査の対象は、CBCC5施設の保育者17名、コミュニティメンバー29名であった。各CBCCにおいて、活動観察2日と保育者への半構造化インタビュー、コミュニティメンバーにフォーカス・グループ・ディスカッションを実施した。本研究の調査は、2022年9月、2023年5月、2023年12月に実施した。

教育実践は、CBCCによって様々であった。どの施設においても、基本的には、就学準備を重視しており、教員主導で、カレンダー、アルファベット、数字、身体の部位の名前などを覚え込ませていた。政府が発行するカリキュラムは、研究対象のCBCCではカリキュラムは

見られなかった。保育者ガイドブックは、一部の CBCC で見られた。なぜなら、政府のカリキュラムや保育者ガイドブックの発行以前に CBCC は設立されており、政府の介入は近年になってからであるためである。A、B、C 施設は、研修を受けた保育者が半数であり、研修で得た知識と自らの考えで活動を実施していた。A 施設は、初等教育のように、タイムテーブルを作成し、それに沿って、活動を実施していた。B 施設では、保育者の知識で活動を実施していた。C 施設では、保育者が活動計画を立てており、それに沿って実施されていた。一方、D と E 施設では、全ての保育者がドナーによる 2 週間の研修を受けており、研修で得た本を基に活動が実施されていた。